



薩摩の古道 薩摩街道 歩行マップ

14 島津義弘公銅像(日置市伊集院駅前)



1 チェスト館

日置市都市農村交流施設



3 島津家の家紋

車止めなどの石柱にさりげなく使われています。(伊集院町竹ノ山)



2 桜並木の街道

歩道は整備されてとても歩きやすいです。数キロ続く桜並木。圧巻です。



6 化学工場入口



7 清藤



15 徳重神社

妙円寺は大内義弘の息女・法智妙円大姉の菩提寺として明徳元(一三九〇)年に開いた古刹。その後、島津義弘が自分の木像を納め菩提寺とした。明治二年、廃仏毀釈により取り壊されてその跡地に徳重神社が建立されました。妙円寺も明治十三年に神社近くに復興されました。



妙円寺詣り

島津義弘の死後、関ヶ原の戦の辛苦を偲び合戦前夜の旧暦9月14日に城下士が約20キロを歩いて「夜詣り」するようになりました。これが現在に伝わる「妙円寺詣り」の始まりです。



一字治城跡 城山公園



17 一字治城と島津貴久

天文十四(一五四五)年、島津貴久は一字治城を居城として宇護職に復帰しました。薩州家との十数年に及ぶ抗争を制してのことでしたが、日向の雄・伊東氏からの攻勢を受けていたことも大きく影響しているようです。「外圧」があることにより薩摩・大隅・日向の三州に割拠する島津一門の領主たちは政治的統合を余儀なくされ、その盟主として貴久の推戴が実現したのです。天文十八(一五四九)年、イスマニアのザビエルは日本人ヤジロウ(鹿兒島出身)の案内で鹿兒島に上陸し、日本へのキリスト教布教の第一歩を踏みました。島津家第十五代、貴久は一字治城でザビエルと対面し、領内布教を許可しました。けれどもその後、仏教徒の激しい反対にあって、期待していた貿易船がやってこなかったことなどから貴久は布教に対し冷たい態度をとったと伝えられています。このためザビエルは鹿兒島を去り、平戸から山口・堺・京都へと足をのばし、日本へのキリスト教伝達の道を開いていったのです。



地頭飯屋跡(現 伊集院小学校)



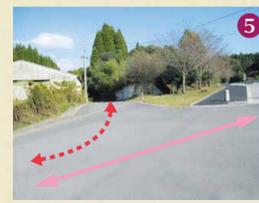
凡例

- 薩摩街道 (消滅道)
- 薩摩街道迂回路
- 国道
- 薩摩街道の道標
- 案内板
- 史跡

4 竹ノ山



5 新村バス停



6 化学工場



9 清藤橋



10 清藤バス停



11 永平橋

永平橋は石で造られていたが現在はコンクリートの橋へと架け替えられています。橋の袂にある石碑に刻まれた字は、当時郡方書役助であった西郷隆盛の書と伝えられています。



13 伊集院市街地



16 城山公園の手前T字路



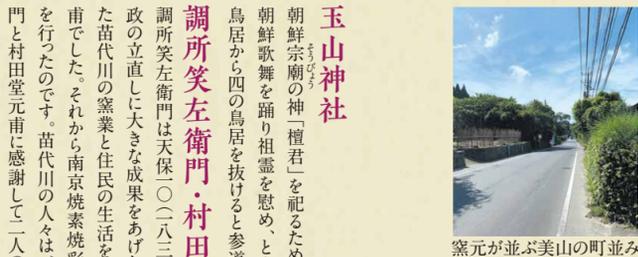
18 ザビエルと島津貴久との会見の地。一字治城への案内板があります。





薩摩焼

薩摩焼の歴史は、朝鮮出兵に参加した島津義弘が連れ帰った陶工に始まります。島津氏は当初、串木野の下名村で生活していた陶工たちを苗代川（現在の美山）に移し窯業の奨励と保護に力を注いだのです。伝来当初は、朝鮮半島の白土と釉薬で作られ、「火」のみ薩摩のものという意味から「火計手」と呼ばれていました。貫入と呼ばれる細いヒビが入り淡黄色のものが「白薩摩」。これは代々薩摩藩主御用達の品でした。庶民の日用品としては「黒もん」とよばれる「黒薩摩」が愛用されていました。



窯元が並ぶ美山の町並み



調所笑左衛門の招魂墓と玉山神社への参道

玉山神社
朝鮮宗廟の神「檀君」を祀るために苗代川の人々が廟を建て、ここで朝鮮歌舞を踊り祖霊を慰め、ともに語り合ったとされています。鳥居から四の鳥居を抜けると参道。玉山神社があります。二の鳥居から苗代川を渡る参道。調所笑左衛門・村田堂元甫の招魂墓
調所笑左衛門は天保一〇（一八三九）年に薩摩藩の家老となり藩財政の立直しに大きな成果をあげた人物です。この時、行きつまつていた苗代川の人々の生活に救済の道に派遣された村田堂元甫です。それから南九州焼窯彩色人形の奨励やさまざまな施策を行ったのです。苗代川の人々は、窯業発展に尽くした調所笑左衛門と村田堂元甫に感謝して二人の招魂墓を建てたのです。



15 遠見番山
烽火とは見晴らしのよい山の峰から次の峯へと「火」を使って合図を送る伝達方法のことです。後に狼煙の文字が用いられました。異変を知らせる情報は太宰府に集められ中央朝廷へと伝達されました。（烽火は「昼夜二千里を行くべし」と兵部式に記されています。二千里がどの程度の距離を表すのかはつきりませんが当時のとしては最も早い伝達方法であったと考えられます。監視の任務を担った遠見番所と呼ばれる場所は各地にあります。このひとつです。狼煙には狼糞を乾かして使っていました。野生味あふれる大地が広がっていたことでしょう。

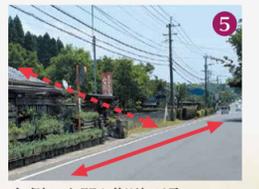


標高180メートルの展望台からは野間岬より羽島崎まで一望できます。



寺脇バス停

寺脇公民館



左側の山間を街道は通っていましたが消滅してしまいました。



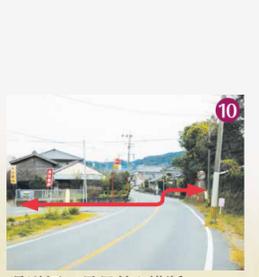
美山入口バス停



国道と並行して数百メートル残る薩摩街道。



石敢当が道路脇にあります。



県道江口長里線を横断



長里跨線橋近くの三叉路



1 大渡橋の石碑
石碑に刻まれた字は西郷隆盛の書と伝えられています。
（記念碑は工事中につき仮移設中）



寺脇坂



左側は県道江口長里線



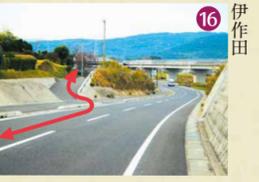
三叉路



東市来町長里



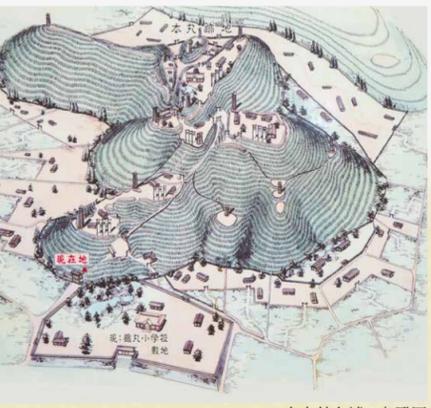
坂之上下



伊作田



伊作田（左側は南九州西回り自動車道）



市来鶴丸城の鳥瞰図



丹後局御船付場跡
御船付場跡の石碑は市来駅前建立されています。この場所は海岸からかなり離れていますが、かつては舟が通行できる水運があったことを意味しています。島津氏初代忠久誕生の際大雨が降る中狐火が周りを照らし守護してくれた事や朝鮮出兵の時、狐が敵の火薬庫に火を放ち島津勢に勝利をもたらした事などの伝承から島津氏は狐を神と崇めて祭神としました。島津忠久の母は、丹後局とされていますが市来周辺地区には丹後局所縁の城跡や寺、墓などが数多く存在しています。



市来町教育委員会